

# 6月本会議で初の質問

7月1日福岡市議会議場にて公明党を代表し一般質問を致しました。3点のテーマを取り上げ行政当局からも前向きな回答を得ることが出来ました。

## ☆学校選択制の導入について当局の見解をたず

自宅の近くに学校があるのに校区制のためバスに乗って多々良小学校まで時間をかけ通わなければいけないとの要望を受け質問しました。2月に3500名の通学バス補助の署名があり、地域でも校区の自由選択要望が高まっているとの点を指摘した所、山崎市長から通学区域設定後の状況が今や変化してきており見直しを進

めていく、との前向きな答弁がありました。

## ☆地域コミュニティの活性化について施設を要求

1校区で1公民館しかなくそれも歩いて50分程度かかり利用しづらい地域があるとの選挙中に要望を受けました。

福岡市の遊休地の状況を調べたところ、財政局管

理分で53件 3万9千㎡ありました。(福岡ドームア

リーナ3枚分) それ以外に土地開発公社が先行取得のため土地を銀行から借り入れて購入しており、その金利が1年間で約30億7千万円になつてい

ることが判明した。7月2日付の毎日新聞に記事が掲載されました。当局は

利用計画がなくなくなった土地に付いて本年度より売却手続きに入ると表明しました。施設につ

いて市長は集える場の確保は重要である、との認識を示し高齢者が集える

7月1日本会議場にて撮影



2003年(平成15年)7月2日

毎日新聞

### 先行取得用地の支払利息30億円

福岡市土地開発公社が市に借入した約36億円の土地は約36億円で、総額509億円、支払利息が総計約30億円(いずれも3月末現在)に上ると

だが、1日の市議会一般質問で明らかになった。市は公社に低利融資への借り換えを指導するなど健全化を図っている。

山口剛司議員(公明)が遊休地の実態などを聞いた。市財政局によると、市から公社への先行取得

の依頼は毎年約100件以上あるが、市の財政状況が厳しさを増す中で事業予算がつかず、買い取れないケースが増えている。また、公社が5年以上保有するいわゆる塩漬地は約3000件あり、うち6件0.6坪程度を8月にも一般競争入札で売却する予定。

一方、市所有の未利用地(100平方メートル以上)は53カ所計3.9haある。過半数は町村合併時に引き継いだ墓地跡やため池で活用が見込めないという。うち6件0.6坪程度を8月にも一般競争入札で売却する予定。

場、さらに若者が利用しやすい場を造っていくと表明しました。

## ☆国際集客文化都市を目指し、集客産業の今後の計画と進行について質問

福岡アジアビジネス特区の今後の計画発表がありました。

1. 十年間で企業誘致約7百件

2. 約2千8百億円の生産額増加

3. 約2万人の雇用創出を目指す指標が示されました。

また、これからの大型コンベンションや会議を尋ねました。千人以上の参加者があるイベントは3百

件程度の予定があり、そのうち国際的な大会は22件予定されております。主なものは次の通りです。

- ・ 16年国際青年会議所 世界大会 (約1万5千人)
- ・ 17年都市緑化フェア (人工島 目標百万人)
- ・ 17年国際宇宙会議 (約2千5百人)
- ・ 18年世界政治学会 (約2千人)

経済波及効果のあるイベントで活性化に向け今後も積極的に取り組んでまいります。

# カニ、貝 エビなど

カニや貝、水生生物がすめる護岸に——と、福岡県は福岡市東区多の津の2級河川・多々良川で、自然環境に配慮した連続柵護岸工事を進めている。これは、内部に石を詰めた柵を連続して配置することで河岸を保護し、生物の生息場を確保するもの。当初計画では底生生物などが生息しにくい石張り護岸であったことから、県議会公明党の広田誠一議員が自然環境保護の市民グループとともに、県に工法の見直しを要請していた。先月29日には、広田県議や山口剛司・福岡市議、市民グループのメンバーが現地を視察した。

す

## 水生生物が棲める護岸に



### 連続柵で生息場確保

#### 福岡市

連続柵護岸工事が行われ、斜面にはコンクリート製擬木を枠組みし連結した柵が6段設置されている。多々良川河口から2・6キロ地点に架かる「大橋」の左岸上流部の120メートル間。現在の岸辺下の19メートル間に、干潟部分にはヨシが群生し、絶滅が危ぶまれる。この干潟は、潮の干潟の影響を受ける感潮区を極力残し、岸辺と護岸との間に潮だまりを新設。護岸の柵内に小石を詰め、土で覆うことで植物の再生や生物の生息場を確保することになっている。

同川の河川改修は、河口からJR香椎線までの5キロ区間で実施されており、洪水被害の軽減が目的。事業は1988年に着手し、すでに全体の半分、下流域部分の整備が完了している。環境保護団体とともに現地視察する広田県議(右端)と山口市議(右2人目)

備が終わった。工事は、水が流れる低部に石張りがあり、底生生物や水生生物の生息地。川の沿岸には野鳥のウがすみつく餌り木もあった。

この工法は、干潟を消滅し、高水部に砂を張るという「石張り護岸」方式で行われた。そこで、同川の自然環境を守るため90年から活動する市民グループ「たたらルネサンス倶楽部」(神坂龍夫代表)が、広田県議に環境保全策で相談。97年には、同県議とともに県福岡土木事務所に餌り木の保存と護岸工法の見直しを強く申し入れた。

### 公明県議と環境保護団体の訴え実る 干潟残し潮だまりも設置

この結果、県は同年9月に設計を変更。国の承認を得て昨年11月、自然環境に配慮した連続柵護岸工事に着手した。完成は今年10月。視察を終えた神坂さんは「この工法は、シオマネキなど絶滅が危ぶまれる生物がいます。種を残す上からも最低限の環境は守られた」と喜びを語っていた。

ところが昨年春、県が餌り木を伐採したことから、広田県議は同倶楽部と護岸策を話し合い、同年5月、再度、同事務所に底生生物などの生息地の確保と環境を保全する工法への見直しを要請。同県議の呼び掛けで、同事務所と同倶楽部や地域住民による工法見直しの検討会が設けられた。

- 副委員長
- ・ 第3常任委員会 (港湾局・農水局・経済振興局)
- ・ 都市問題等調査特別委員会
- 副会長
- ・ 博多港地方港湾審議会
- 審議会委員
- ・ 九州大学移転対策協議会
- ・ 博多湾水産資源影響調査審議会
- ・ 福岡市貿易振興審議会
- ・ 福岡市中小企業振興審議会

山口 剛司の兼務の役職

8月法律相談日程 (全て予約制です)

福岡市役所 13時から TEL711-4728

・ 6日(火)・8日(金)・12日(火)・27日(水)

公明県本部 29日(金)18:30から TEL411-0246

税務相談 21日(火) 福岡市役所 13時から

年金相談 12日(火)・26日(火) 県本部 18時

※電話予約が必要です。当日は相談できません。

キャンセルの場合は必ず前日まで連絡下さい。

公明新聞に地域調査が掲載されました！